

ペア学習でコミュニケーション活動を活性化する取組例

能代市立東雲中学校 教諭 田山 智治

1 はじめに

英語の授業で最も大切にしているのが、「学級づくり」の理念である。相手が話していることに静かに耳を傾け、真摯に意見を言い合い、共に学び合おうとするような集団なら、日々居心地がよくなり、自己有用感も高まる。学級集団の習熟に伴って、学力が伸びていくことも期待される。

また、社会で生きていくには、コミュニケーション能力と社会性が必要であり、それらを身に付けるためのツールの一つとして「英語」を捉えてきた。そのため、英語の授業では、「フォニックス学習」「ペア学習」「語順指導」「家庭学習とのつながり」の4つを重点として、言語活動（コミュニケーション活動）を活性化しながら、スパイラルに基本スキルを高めてきた。その中でも積極的に活用しているのが、ペア学習であり、主に次のような形態で日々の授業を展開している。

〈学期ごとのペア学習形態〉

- ・ 1学期 生活班を中心としたペア・グループ活動
- ・ 2学期 夏休み中にペアを決定し、固定ペア活動
- ・ 3学期 固定ペア活動から個別学習へ

以下に「ペア学習」と「フォニックス学習」の一部実践を取組例として紹介する。



ペア学習の様子

2 指導・取組の実際 【導入部での活動】

○例1 Yes/No 疑問文の答え方（1年生）

「Are you busy?」「Do you listen to music every day?」などの疑問文に対して、Yes や No だけで答えが返ってくるケースが多い。文構造を理解していく上でも、be 動詞と一般動詞を教えた後は、以下のような答え方をくり返しさせている。

A : Are you busy?
B : Yes, I am. / Yes, I am busy.
A : Do you listen to music every day?
B : Yes, I do. / Yes, I listen to music every day.

慣れてくるとペアで役割を決め、疑問文を作る人、その疑問文に答える人で言語活動をテンポよく行うことができる。英問英答の基礎を固めていくのがここでのねらいである。

○例2 疑問文づくり①（1年生／2年生）

黒板に英文を書き、そこからいくつ疑問文を作ることができるのかをペアで考えさせる。

Mike plays baseball in the park every Sunday.
⇒ How many questions can you make?
この英文からは次のような疑問文を作ることができる。
Does Mike play baseball in the park every Sunday?
Who plays baseball in the park every Sunday?
What does Mike play in the park every Sunday?
What does Mike do in the park every Sunday?
Where does Mike play baseball every Sunday?
When does Mike play baseball in the park?

家庭学習にも応用し、疑問文づくりの活動を継続していく。語順について意識的に考えるようになると、次第に英問英答の力も身に付いてくる。英語検定や高校入試、学習状況調査など諸調査では英問英答の力は必須である。普段からすきまの時間を見つけては、疑問文の作り方やそれらの答え方に時間を割くようにしている。

○例3 疑問文づくり②（全学年）

疑問詞が書かれたカードを提示し、そこからペアで疑問文を作り出す活動を行う。
1年生からできる活動であり、3年生の間接疑問文でも応用ができる。

how というカードを引いたら⇒

How do you come to school?
How long do you study English every day?

間接疑問文では、「Please tell me how you come to school.」「Please tell me what you did last night.」などを作ることができる。机の上に疑問詞が書かれたカードを積み重ねて、引いたカードから疑問文を瞬時に作るというグループ活動を行うこともできる。個人の理解度を確かめたい場合は、ALT とのインタビューテストにも応用できる。様々なシチュエーションで、変化のあるくり返しを行っている。

会話のやりとりを重視したい場合は、疑問詞カードを引いてから、ペアで即興で3回会話のやりとりを行うといった活動に発展させることもできる。

○例4 フォニックス学習（1年生）

中学校では、小学校外国語活動と違って、単語や英文を書ける段階まで引き上げる必要がある。文字と音が連動し、文字が読める、発音できる語が文字化できる喜びを与えてあげるのが中学校の初期段階である。その実現のための対策が「フォニックス」であり、中学校1年生から段階的に3年間かけてスパイラルに行っていかなければいけない。

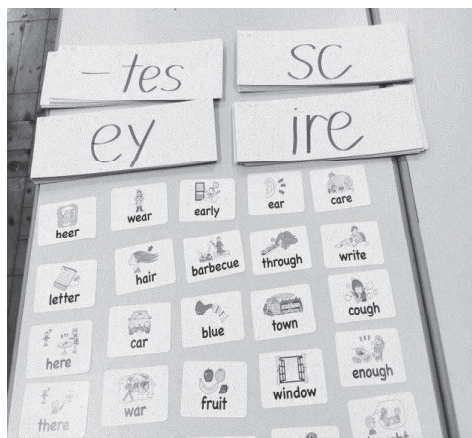
始めに、アルファベットの名前と音をフラッシュカードを使ってじっくり教える。名前とは b「ビー」、c「シー」など、各アルファベットの呼び名であり、音とはそれらが単語の中で果たしている役割、つまり b は「ブ」と読み、c は「ク」や「ス」と読むことを徹底する。ある程度慣れてきたら、カードの表面にアルファベットの小文字、裏面にその音がカタカナで書かれてあるカードを配り、生徒同士で活動を行わせる。

ジャンケンで負けた人がカードを見せ、勝った人はカードに書かれているアルファベットの音を読む。

A : 小文字のフラッシュカード b を見せる
B : My sound is 「ブ」
A : That's right. Here you are.
B : Thank you. (カードを受け取る)

カードがなくなった人は、「I don't have any cards, so please give me some.」という英語を言いながら、教師のところにカードを取りに来る。授業開始と同時にこの活動を行うと、非常に盛り上がり、活発な言語活動につながりやすい。

フラッシュカードのレベルは少しずつ上げていき、最終的には、ch / ci / ck / dge / eu / ew などの特殊な読み方に挑戦させる。併せて、市販されているフォニックスカルタを使い、楽しみながら特殊な読み方を覚えていく活動も行っている。



フォニックス資料

【展開部での活動】

○例5 秋田を新しい ALT に紹介するペアワーク（3年生）

新しい ALT が来ることになったので、ペアで秋田の良さを ALT にアピールする活動を行った。クラス全体で紹介したい秋田の名産品や特産物、観光地などを出し合い、その後、キーワードを使って英文を作り出し、最終的にペアで ALT に伝える活動を行った。以下は生徒たちから出てきたキーワードである。

きりたんぼ・ハタハタ・ジュンサイ・ババヘラアイス・横手焼きそば・桧山納豆・角館・田沢湖・白神山地・大森山動物園・男鹿水族館・なまはげ・かまくら・大曲の花火・バスケットボール・竿灯・おなごりフェスティバル・秋田犬・秋田美人

現在完了形の経験用法を学習したところだったので、生徒たちは基本文を応用し、以下のようなアピール文を完成させた。

Have you ever taken a shinkansen?
I've taken a shinkansen many times.
This is called Super Komachi.
It takes four hours from Akita to Tokyo.
You can enjoy good traveling if you use it.
If you're interested, please use it.

Have you ever eaten rice of Akita ?
I've eaten it since I was a little child.
We have special rice in Akita.
This is called Akita Komachi.
This is very delicious.
If you're interested, please eat it.

全体で振り返り活動を行った後は、秋田県教育委員会が発行した「秋田ふるさと紹介ハンドブック」を提示し、自分たちが作った英文と比較させ、加除修正などを行った後学校祭の作品として展示をし、情報発信している。

○例6 環境問題について（3年生）

「ビニール袋は禁止すべきだ」という意見文に対して、賛成か反対かのミニディベート活動をまず行う。その後、環境問題について理解を深めさせるために、英文を読ませ、分かったことや思ったことを相手に伝える活動を行った。

生徒はAからDのカードを1つ選び、何が書かれているのかを読み取る。その後、自分と違うカードを持っている人に、自分が学んだ情報をキーワードのみを手がかりに伝える。そこで、驚いたこと、新しく知ったことをメモしていく。最終的に、「What can we do for the earth?」という問いに対して、自分の意見を20語以上で書かせる活動につなげていく。

Card A

In southeast Asia, people are cutting down mangrove trees to make ponds. They grow shrimp there and Japanese people eat the shrimp.

In Canada and the Amazon, a lot of trees were cut down. Japanese people are using the trees for their houses.

Card D

A lot of rain forests are disappearing in the world because people cut down trees. As a result, the earth is getting warmer and warmer. In the Antarctic, there is a lot of ice. Scientists say that if all the ice melts, the sea level will rise 70 meters more. Many parts of Japan will sink into the sea.

3 まとめ

主体的、自発的な英語学習を促すため、ペア学習を授業の中心に位置付けて授業を行ってきたところ、人間関係の構築や英語力の向上が見られた。授業後の振り返りアンケートには、「分からないところを聞きやすくなった」「お互いに目標をもって取り組めるから楽しい」「達成感がある」などの意見が多くあった。

今後もペア活動など様々な指導形態を工夫しながら、新学習指導要領で示されている2種類の言語活動（「言語材料について理解したり練習したりする活動」と「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」）を、授業の中で効果的につなげていきたい。そして、生徒たちに身に付けさせたい能力は何なのか、どのような能力を育てていかなければいけないのか、そのためにどのような活動が有効なのかを考えて、今後も授業づくりに励んでいきたい。